

年 頭 の 辞

新年のご挨拶



一般社団法人 軽金属学会
会長 金子 明

新年明けましておめでとうございます。本年も会員の皆様のますますのご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

さて、昨年は、ヨーロッパの経済危機、中東の政情不安、頻発する国際テロなど先行きに暗い影を落とす事象に加え、中国経済の減速傾向がはっきりしてきたことなどから比較的堅調な北米を除くと内外の景気も足踏みせざるを得ない状況となり、好転の兆しは見えていません。

軽金属分野もその影響から逃れることはできませんが、一方で輸送機を中心に軽量構造化の流れが加速しつつあり、自動車のアルミニウム使用量が年30万トンを超えたほか、航空機需要が拡大すると見通される中でアルミニウム、マグネシウム、チタンへの需要増が期待されています。そのほか、飲料缶の需要も、ビールは伸び悩むものの、ボトル缶、コーヒー缶の拡大で、総量としては増加傾向にあるなど、足元の景気動向にかかわらず軽金属材料の特性が世の中の様々な要求に応えその強みを発揮しつつあることも事実です。

こうした状況の中で軽金属材料の研究開発、技術開発に対する期待が大きいことは言うまでもありませんが、60年余に及ぶ当学会の果たすべき役割も従来にも増して大きなものがあると認識しています。会長に就任して7か月が経過しましたが、活動方針として掲げた「技術革新」「人材育成」「国際交流」という3本の柱について、会員の皆様のご理解のもと理事会、各委員会、そして各支部で積極的なご参加を頂きながら、具体的な活動を推進いただいていると認識しています。会員の皆様、そしてご協力頂いている産官学の皆様に心から感謝申し上げます。

「技術革新」について、具体的には、活動の基盤である研究委員会にて新しく立ち上げた13の研究部会が組織化され、活動計画も具体化が進んでいます。昨年終了した6部会の活動の成果は研究部会報告書として順次出版しています。また、シンポジウムの形で公開し、多数の参加をいただいて活発な議論がなされています。

「人材育成」については、人材育成WGを立ち上げ、様々な角度から活動を開始しています。小中高の技術科の授業の内容等を扱う日本産業技術教育学会の全国大会（愛媛大学開催）へ参加し、学会の人材育成事業や軽金属製品を紹介し、技術科授業に軽金属材料の加工実習を取り入れるなど、軽金属製品の啓蒙となる企画採用のお願いを致しました。軽金属学会OBの先生方のご協力も得て、活動が本格化しつつあります。

日本の軽金属が持続的に世界をリードする存在であり続けるためには、将来を担う強固な人材基盤を構築していくことが不可欠ですが、学生の理科離れ、博士課程進学者の先細り、金属材料分野が絶滅危惧学科であるなどの現実を見ると、問題の深刻さをあらためて強く感じています。簡単な課題ではありませんが、産官学が状況を共有し、それぞれの立場で実効性ある具体的な行動に結び付けられるよう取り組んでいきます。

「国際交流」については、次回ALMA 2016の計画が進んでいます。また、当学会に関連する大きな国際会議であるICAAも日本開催に向けて議論を始めました。

学会活動全般に関して、他学協会との連携についても様々な交流の中から、技術開発はもとより、人材育成への貢献、さらには国プロへの参画実現などの成果に結びつくことを期待しています。

本学会の会員構成は、学术界と産業界は軽金属の素材メーカーそしてユーザーまでバランスが取れ、軽金属に特化した産学連携学会としては、世界で唯一のオンリーワンの学会です。取り組む課題を達成するためにも現在の会員2,000人余をさらに維持拡大していくことが重要であり、引き続き取り組んでいきます。14年度からスタートした維持会員の拡大については、中堅企業支援のプログラムを含め、各支部のご尽力により、2015年末時点で維持会員134社と拡大してきました。今後も引き続き会員の拡大を実現し、更に事業基盤を強くしていきたいと思っております。

本年も当学会が担っている大きな役割を果たすため先頭に立って諸課題に取り組む所存です。会員の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

結びに、会員の皆様、並びにご家族のご多幸を祈念して新年のご挨拶と致します。